

LOWRANCE

Hook Reveal X Series

オペレーターマニュアル

日本語



前書き

免責事項

Navicoは継続的に製品の改善を行っており、当社は本版のマニュアルに反映していない製品に対する変更を随時行っていることがあります。何らかのお手伝いが必要である場合は、最寄りの代理店にご相談願います。

機器は、お客様の責任において、事故、負傷もしくは物損の原因とならないような方法で取付け、ご使用をお願いいたします。海上における安全慣行の順守は、全面的に本製品のユーザー様の責任となります。

NAVICO HOLDING AS およびその子会社、支店、関連会社は、本製品を事故や危険の原因となり得、法律違反となり得る方法で使用した場合については、一切の賠償責任を負いません。本マニュアルの内容は、印刷時における製品を表わしています。Navico Holding ASおよびその子会社、支店、関連会社は、予告なく仕様を変更することがあります。

使用言語

製品に関連する本記述、一切の操作マニュアル、ユーザーガイドおよびその他の情報 (Documentation (文書)) は他の言語に翻訳されることがある、もしくはされてきております (Translation (翻訳))。DocumentationのTranslationの間に矛盾がある場合は、Documentationの英語版が公式版となります。

商標登録

Navico® は、Navico Holding ASの登録商標です。
Lowrance® は、Navico Holding ASの登録商標です。
C-MAP® は、Navico Holding ASの登録商標です。
Navionics® はNavionics, Inc の登録商標です。
SD™ およびmicroSD™ は、合衆国とその他の国もしくはその両方におけるSD-3C, LLCの商標もしくは登録商標です。

Navico製品の参照先

本マニュアルは以下のNavico製品に対して参照されます。

- ・ DownScan Imaging™ (DownScan)
- ・ DownScan Overlay™ (Overlay)
- ・ FishReveal™ (FishReveal)
- ・ Genesis® (Genesis)
- ・ StructureMap™ (StructureMap)

著作権

Copyright © 2019 Navico Holding AS.

保証

保証登録は、当社のユーザー登録ページより申請願います。
<https://out-break.com/form/lowrance/>

コンプライアンス声明

宣言

コンプライアンスに関連する宣言は以下をご参照願います。
www.lowrance.com

ヨーロッパ

Navicoは、製品が以下の要件に対する適合性に責任を負っていることを宣言します。
・ RED 2014/53/EUの下のCE

アメリカ合衆国

▲ 警告：コンプライアンスに責任を負う者が明確に承認していない変更や改造を行った場合、ユーザーの機器操作に対する権限が取り消されることがあります。

オーストラリア・ニュージーランド

Navicoは、製品が以下の要件に対する適合性に責任を負っていることを宣言します。
・ 2007年のRadiocommunications（無線通信）
(Electromagnetic Compatibility（電磁適合性）) 規格のレベル2
のデバイス

本マニュアルについて

本マニュアルは、Hook Reveal Seriesユニットの操作についての参照ガイドです。サイズによっては、メニューやダイアログのスクリーンショットが、お使いの本体の表示とは異なることがあります。

これらの本体は、本体に付属しているトランスデューサーの取付けガイドに記載の仕様内で示されている、ソナービューおよび周波数に対してのみ対応可能です。

オプションのトランスデューサーアダプターケーブルを介して追加されているトランスデューサーには、ディスプレイが動作するように設計されているビューおよび周波数のみ対応可能です。AIRMARトランスデューサーは、アダプターケーブルを介しての対応は行っておりません。

マニュアル内では、ユーザーの注意が特に必要な重要な文章は、以下のように強調されています。

➔ **注意**：コメントや重要な情報についてのユーザーへの注意喚起に使用。

⚠ 警告：ケガのリスクや機器/人体への損傷を防ぐために注意して進めることが必要なことを警告するために使用。

マニュアルの版数

本マニュアルの記述は、Hook Reveal Seriesに含まれるソフトウェアの初版に対するものです。マニュアルは新しいソフトウェアのリリースに合わせて、継続的に更新されています。最新版の入手可能なマニュアルは、www.lowrance.comからダウンロード可能です。

ソフトウェアの版数

本体の現行ソフトウェアのバージョンは仕様ダイアログ内に示されています。仕様ダイアログはシステムダイアログ内にあります。

お使いのソフトウェアの情報については、78ページの「ソフトウェアの更新」を参照ください。

目次

11 序説

- 11 キー操作
- 12 ホームページ
- 13 アプリケーションページ
- 14 デバイスの登録

15 基本操作

- 15 システムのオン/オフ
- 15 システムコントロールダイアログ
- 16 スタンバイモード
- 16 ディスプレイ照度
- 16 メニュー・ダイアログの使用
- 17 パネル上でのカーソルの使用
- 17 Man Overboard(船外転落)ウェイポイント
- 18 スクリーンショット

19 システムのカスタマイズ

- 19 ホームページ壁紙のカスタマイズ
- 19 データのオーバーレイ
- 20 カスタムページ
- 21 マルチパネルページの分割の調整

23 GPSプロッター

- 23 GPSプロッターページ
- 24 船マーク
- 24 GPSプロッタースケール
- 24 GPSプロッター画像のパニング
- 24 ウェイポイント、ルート、航跡
- 24 航法
- 24 その他のオプション
- 27 GPSプロッターの設定

28 ウェイポイント、ルート、航跡

- 28 ウェイポイント、ルート、航跡ダイアログ
- 28 ウェイポイント
- 30 ルート
- 34 航跡

37 航法

- 37 航法について
- 37 メニューオプション
- 37 カーソル位置への航行
- 38 ウェイポイントへの航行
- 38 ルートの航行
- 38 ナビゲーションの設定

40 ソナー

- 40 ソナー画像
- 40 画像のズーム
- 41 画像上でのカーソルの使用
- 41 履歴の閲覧
- 41 ソナーログデータの記録開始
- 42 ソナーログデータの記録停止
- 43 記録した音響データの閲覧
- 43 画像設定のカスタマイズ
- 43 カスタムとアイスフィッシングモードオプション
- 46 その他のオプション
- 48 ソナーの設定

51 サイドスキャン

- 51 サイドスキャンについて
- 51 サイドスキャン画像
- 51 画像のズーム
- 52 パネル上でのカーソル使用
- 52 履歴の閲覧
- 53 サイドスキャンデータの記録
- 53 サイドスキャン画像の設定

56 ダウンスキャン

- 56 ダウンスキャンについて
- 56 ダウンスキャンパネル
- 56 ダウンスキャン画像のズーム
- 56 ダウンスキャンパネル上でのカーソル使用
- 57 ダウンスキャン履歴の閲覧
- 57 ダウンスキャンデータの記録
- 57 画像設定のカスタマイズ

61 ストラクチャーマップ

- 61 ストラクチャーマップについて
- 61 ストラクチャーマップ画像
- 61 ストラクチャーマップのヒント
- 62 ストラクチャーマップデータの記録
- 63 ストラクチャーのオプション

64 アラーム

- 64 アラームシステム
- 64 メッセージの種類
- 64 アラームメッセージ
- 64 メッセージの確認
- 65 アラームダイアログ

66 ツール

- 66 設定
- 69 ウェイポイント/ルート/航跡
- 69 インフォ
- 69 ストレージ

70 メンテナンス

- 70 予防メンテナンス
- 70 ディスプレイユニットのクリーニング
- 70 コネクターのチェック
- 70 サービスアシスタント
- 71 ソフトウェアの更新
- 71 システムデータのバックアップ
- 74 バックアップファイルのインポート

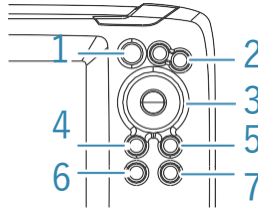
75 シミュレーター

- 75 リテールモード
- 75 シミュレーターソースファイル
- 76 高度なシミュレーターの設定

1

序説

キー操作

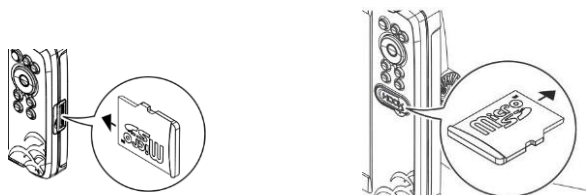


- 1 ページ** - 押すとホームページが開きます。
- 2 ズームイン/アウト** - 押すと画像がズームします。
2つのキーを同時に押すと、ボート位置にMOB (船外転落) ウェイポイントを作成します。
- 3 矢印** - 全てのフルスクリーンページ: 押して画像上でカーソルを移動します。押して画像を任意の方向に振りまします。マルチパネルページ上: 押してパネルを選択します。メニューおよびダイアログ上: 押すとオプションをハイライトします。
- 4 イクジット (X)** - 最大化したマルチパネルページ上: 押すとマルチパネルページに戻ります。メニューおよびダイアログ上: 押すと前のメニューに戻ったり、ダイアログを閉じます。
- 5 メニュー/エンター** - メニューおよびダイアログが起動していない全てのフルスクリーンページ上: 押すとメニューを表示します。マルチパネルページ上: 押すと現在選んでいるパネルを最大化します。メニューおよびダイアログ上: 押すと選択を決定します。
- 6 カーソル/ウェイポイント** - 押すとカーソルが有効/無効になります。長押しでウェイポイントを保存します。
- 7 電源** - 押すとシステムコントロールダイアログが開きます。
長押しで、本体電源をオン/オフします。

マイクロSDカード

モデルによって、カードリーダーは本体側面もしくは前面のいずれかにあります。

→注意：Hook Reveal Xシリーズは地図カードを読みません。



ホームページ

ページキーを押せば、どの操作からでもホームページにアクセスできます。

→注意：ホームページ上のページアイコンはモデルによって異なります。



1. **ツールパネル**-ボタンを選択し、タスクの実行または保存した情報を閲覧するダイアログにアクセスします。
2. **アプリケーションページアイコン**-ボタンを選択し、アプリケーションページを表示します。
3. **カスタマイズ**-カスタムモードを起動し、カスタムページの削除・編集をします。

アプリケーションページ



- 1 アプリケーションパネル
- 2 メニュー - パネル特有のメニュー
- 3 システムコントロールダイアログ - 基本的なシステム設定へワンタッチでアクセス
- 4 ダイアログ - ユーザーへの情報もしくは、ユーザーからの入力
- 5 アラームメッセージ - 危険な状況またはシステムの故障が発生した場合の表示。

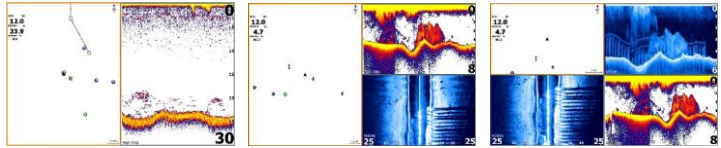
システムに接続されている各アプリケーションは、パネル上に表示されます。

カスタムページ

システムには予め設定されたカスタムページが1つ付いており、自身で作成することができます。すべてのカスタムページは修正、削除可能です。カスタムページを追加するには、P.20の「[新規カスタムページの追加](#)」を参照ください。カスタムページの編集または削除は、P.21の「[新規カスタムページの編集または削除](#)」を参照ください。

マルチパネルカスタムページ

カスタムページでは最大4つのパネルを表示できます。P.20の「[新規カスタムページの追加](#)」を参照ください。



2パネルページ

3パネルページ

4パネルページ

マルチパネルページ内のパネルサイズはシステムコントロールダイアログで調整可能です。P.21 「マルチパネルページの分割の調整」を参照ください。

- いずれのパネル上でもカーソルは使えず、矢印キーを使って有効なパネルを切り替えます。有効なパネルは周りがオレンジ色で示されます。
- メニュー/エンターキーを押して有効なパネルを最大化します。イクジット(X)キーを押して、マルチパネルページに戻ります。
- パネルメニューを表示するには、まず最大化する必要があります。最大化した後、メニュー/エンターキーを(再び)押して最大化された枠のメニューを表示してください。イクジット(X)キーを押してメニューを閉じ、イクジット(X)を再度押してマルチパネルページに戻ります。
- カーソル/ウェイポイントキーを押して、有効または最大化したパネル上のカーソルを有効にし、矢印キーを使ってカーソルを移動します。カーソル/ウェイポイントキーを再度押してカーソルを消します。

デバイスの登録

スタートアップ中にお使いのデバイスの登録をおすすめします。システム設定ダイアログ内の登録オプションを選んで登録することも可能です。

登録は以下で可能です。

- インターネットアクセスしているスマートデバイスから
- 電話から

2

基本操作

システムのオン/オフ

電源キーを押して、システムをオンにします。

電源キーを長押しして、本体をオフにします。

シャットダウンが終了する前にキーを放すと、電源オフのプロセスはキャンセルされます。

システムコントロールダイアログからでもユニットをオフにすることが可能です。

最初のスタートアップ

最初にスタートアップした時、またリセットした後、本体には一連のダイアログが表示されます。ダイアログの指示に従って、基本設定を行ってください。

さらにセットアップをすすめ、システム設定ダイアログを使って後で設定を変更することができます。

システムコントロールダイアログ

システムコントロールダイアログで、基本的なシステム設定に簡単にアクセス可能です。電源キーを短く押すと、ダイアログが表示されます。



機能の有効化

設定またはオンオフを切り替えたい機能のアイコンを選んでください。

オンオフを切り替える機能については、上記のデータオーバーレイアイコンに示すように、アイコンの上にオレンジ色のバーが出て機能が有効であることを示します。

スタンバイモード

スタンバイモードでは、ソナーおよびスクリーンのバックライトがオフになって節電します。システムはバックグラウンドで実行され続けます。

スタンバイモードは、システムコントロールダイアログから選びます。

電源キーを短く押して、スタンバイモードから通常操作に切り替えます。

ディスプレイ照度

明るさ

電源キーを連打すると、プリセットされたバックライトの明るさを切り替えることができます。

ディスプレイのバックライトは、システムコントロールダイアログからも調整可能です。

夜間モード

夜間モードは、システムコントロールダイアログから調整可能です。

夜間モードオプションで、光が乏しい条件下でのカラーパレットを最適化します。

メニュー・ダイアログの使用

メニュー

メニューは、システム操作および設定の調整に使用します。メニュー/エンターキーを押してページメニューを表示します。メニュー/エンターキーを再度押してメニューを閉じます。矢印キーを使ってメニューのオプションをハイライトし、メニュー/エンターキーを押して選択を決定します。

スクロールバー：メニュー内でスクロールバーを有効にして、矢印キーを使って調整します。メニュー/エンターキーを押して調整を保存します。

カーソルの状態 (有効/無効) はメニューのオプションで変更します。

ダイアログボックス

矢印キーを使ってダイアログのオプションをハイライトし、メニュー/エンターキーを押して選択を決定します。

ダイアログにユーザー情報を入力するために必要な際は、数字とアルファベットのキーボードが自動的に表示されます。入力の保存またはキャンセルでダイアログが閉じます。またイクジット (X) キーを押してダイアログを閉じることもできます。

パネル上でのカーソル使用

カーソルは、位置決め、アイテム選択に使用できます。デフォルトでは、カーソルはパネル上に表示されません。カーソル/ウェイポイントキーを使用してカーソルを表示させ、矢印キーを使用してカーソルをパネル上で動かしてください。カーソルがGPSパネル上で有効の時は、カーソル位置ウィンドウが表示されます。ウィンドウの下部には、ボートからカーソルまでの距離と方位が示されます。カーソルがソナーパネル上で有効の時は、ウィンドウにはカーソル位置の水深と水温も示されます。パネルからカーソルとカーソルのエレメントを消すには、カーソル/ウェイポイントキーを押します。

N 59°01.280'
E 13°37.148'
110.5 mi, 104 °M

Man Overboard (船外転落) ウェイポイント

非常事態が発生した場合は、ボートの現在位置に Man Overboard (MOB) (船外転落) ウェイポイントを保存できます。

MOBの作成

Man Overboard (MOB) ウェイポイントの作成方法：

- ズームイン(+)アウト(-)を同時に押します。MOB機能を有効にすると、以下の動作が自動的に実行されます。
- ボート位置にMOBウェイポイントを作成します。
- ディスプレイがズームインされたチャートパネルに切り替わり、ボート位置を中心とします。
- システムが、MOB ウェイポイントに戻るための航法情報を表示します。

複数のMOBウェイポイントを作成できます。ボートは、初期のMOBウェイポイントへの航法情報を示し続けます。次のMOBウェイポイントへの航法は、手動で行う必要があります。

MOBの削除

MOBが有効になっているときは、メニューから MOBウェイポイントを削除できます。

MOBへの航法の停止

メニューから航法を取り消すまで、システムはMOBウェイポイントまでの航法情報を表示し続けます。



スクリーンショット

スクリーンショットの撮影方法：

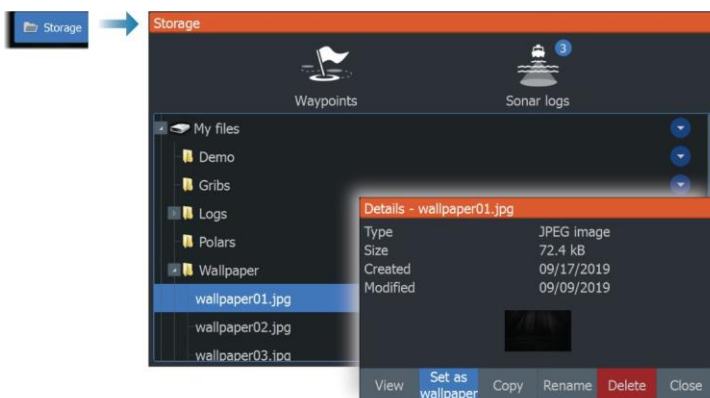
- ページキーと電源キーを同時に押します。

3

システムのカスタマイズ

ホームページ壁紙のカスタマイズ

ホームページの壁紙はカスタマイズが可能です。システム内に含まれている写真から選ぶか、.jpgまたは.pngフォーマットの自分の写真を使うかを選ぶことができます。ファイルブラウザで閲覧できるすべての場所にある画像が利用可能です。画像を壁紙に選ぶと、壁紙フォルダー内に自動的にコピーされます。



データのオーバーレイ

データ情報をページ上にオーバーレイとして表示させることが可能です。

データオーバーレイのオン/オフ

システムコントロールダイアログからデータオーバーレイアイコンで選ぶと、有効なページについてオーバーレイデータをオンオフできます。データオーバーレイがオンのときは、オレンジ色のバーがアイコン上に現れます。

オーバーレイデータの編集

システムコントロールダイアログ上のオーバーレイの編集アイコンを使って編集メニューのオプションにアクセスして、以下を行います:

- 有効なパネルに新しいデータオーバーレイを追加。
- 選んだデータオーバーレイを削除。
- 選んだデータオーバーレイを変更し、異なるデータを表示。



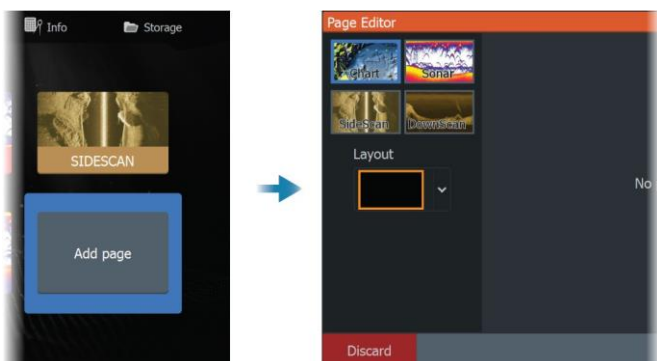
- ・ 選んだデータのオーバーレイの見え方を設定（デジタルかアナログか、サイズなど）。
- ・ アイテムを選んで位置を変え、その後Moveメニューのオプションへ。矢印キーを使用して選んだアイテムを移動。

カスタムページ

新規カスタムページの追加

最大9ページが可能です。カスタムページでは最大4個のパネルが表示可能です。

1. ホームページ上のページの追加アイコンを選び、ページ編集ダイアログを開きます。



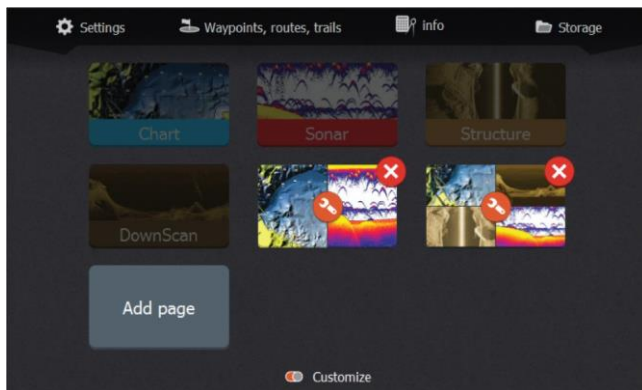
2. 矢印キーを使ってパネルをハイライトしメニュー/エンターキーを押します。パネルがそのページに追加されます。
3. (オプション) ステップ 2 を繰り返して、追加のパネルを追加します。最大 4 パネルが可能です。
 - レイアウトの変更：矢印キーを使ってレイアウトのオプションを選びます。このオプションを使ってパネルをどのように表示するかを指定します。
 - パネルの削除：矢印キーを使ってダイアログ右側の枠を選び、パネル右上の削除 (X) アイコンをハイライトします。メニュー/エンターキーを押します。パネルがダイアログ右側の枠から消えます。
 - パネルの移動：矢印キーを使ってダイアログ右側の枠を選び、移動させるパネルの左上の矢印アイコンをハイライトします。メニュー/エンターキーを押します。大きな矢印アイコンが表示されます。矢印キーを使用してハイライトしたパネルを移動させます。メニュー/エンターキーを押して調整を保存します。

4. ページレイアウトの保存

システムは新しいカスタムページを表示し、新しいページのアイコンがホームページ上に含まれます。

カスタムページの編集・削除

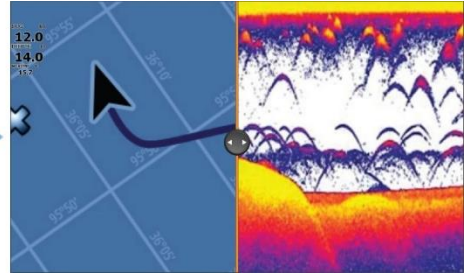
1. ホームページ上で、矢印キーを使用してカスタマイズしたオプションをハイライトし、メニュー/エンターキーを押してカスタマイズしたオプションをオンにします。



2. 矢印キーを以下のために使用します:
 - カスタムページアイコン上のXオプションを選び、メニュー/エンターキーを押してページを消去。
 - カスタムページアイコン上のツールオプションを選び、メニュー/エンターキーを押してページ編集ダイアログを表示。
3. カスタムページ編集ダイアログを使って、パネルをレイアウト変更、追加、および消去します。P.20の「新規カスタムページの追加」のステップ3を参照ください。
4. 変更を保存または破棄して編集モードを終了します。

マルチパネルページの分割の調整

1. マルチパネルページを開きます。
2. 電源キーを短く押して、システムコントロールダイアログを開きます。
3. 分割の調整オプションを選びます。カーソルの矢印アイコンがマルチパネルページに表示されます。
4. 矢印キーを使って分割したい位置に移動させます。
5. メニュー/エンターキーを押して分割の調整を保存します。



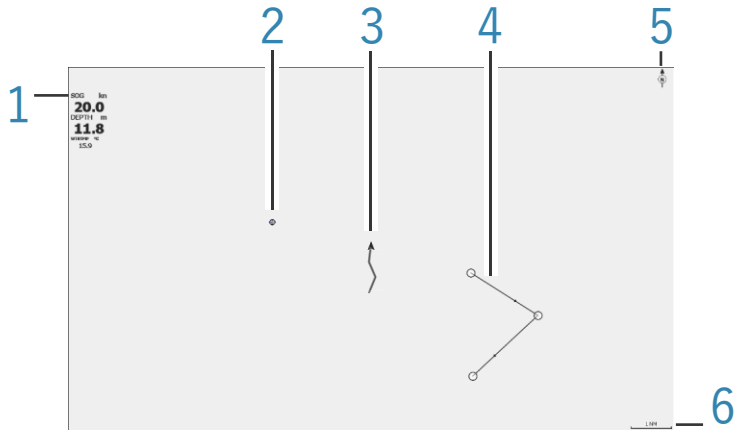
4

GPSプロッター

GPSプロッターページは、ボートの位置を表示します。GPSプロッターページでは、ルート計画を立てて航行したり、航跡を見たり、ウェイポイントを打つことができます。

GPSプロッターページ

- ・ズームキーで画像をズームします。
- ・矢印キーで任意の方向に画像を振ります。
- ・アイテム上にカーソルを合わせ、メニューのインフォオプションを選択し、アイテム情報を表示します。



- 1 データオーバーレイ(編集、移動、削除可能。
P.19『データオーバーレイ』を参照)
- 2 ウェイポイント*
- 3 ボートと航跡(航跡の表示はオプションです*。)
- 4 航跡*
- 5 コンパス
- 6 尺度

* オプションアイテム GPS設定ダイアログからオプションアイテムを個々にON/OFFできます。



船マーク

GPSポジションロックが有効な場合、ボートマークはボート位置を示します。GPSポジションが無効の場合は、ボートマークに？が表示されます。

GPSプロッターページスケール

ズームキーでGPSプロッターページをズームイン・アウトできます。

GPSプロッターページの尺度は、右下角に表示されています。

GPSプロッター画像のパニング

矢印キーで画像を任意の方向へ移動できます。パネルの端にカーソルを合わせ、希望の方向へ動かします。

カーソル/ウェイポイントキーを押すと、カーソルが非表示になります。この時、画像の中心にボート位置がきます。

ウェイポイント、ルート、航跡

ページ上で、ウェイポイント、ルート、航跡を配置・管理できます。詳細は、P.28の『ウェイポイント、ルート、航跡』を参照ください。

航法

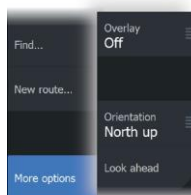
カーソル位置やウェイポイントへ誘導したり、選んだルートに沿って航行します。P.37の『航法』を参照ください。

その他のオプション

GPSオーバーレイ

GPSパネル上のオーバーレイを増やすことができます。オーバーレイをひとつ選ぶとGPSパネルメニューが開きます。選んだオーバーレイについての基本的なメニューオプションが表示されます。

オーバーレイメニューオプション詳細は、下記もしくは本マニュアルの別のセクションで説明しています。



ストラクチャーオーバーレイ

ストラクチャー(ストラクチャーマップ)情報は、GPSパネル上にオーバーレイとして表示させることができます。

→注意：ストラクチャーオーバーレイ(ストラクチャーマップ)は、サイドスキャンが使用できるトリプルショットモデルのみ適応しています。

ストラクチャーオーバーレイを選択すると、GPSメニューが開き、サイドスキャン(ストラクチャーマップ)用の基本機能が表示されます。P.61の『ストラクチャーマップ』を参照ください

ジェネシスライブ

ライブソナーサウンディングを基にマッピングしながら、等深線のオーバーレイをリアルタイムに作成します。ジェネシスライブソナーサウンディングは、本体のメモリーカード上に記録され、メモリーカードから読めます。

メモリーカードが入っていない場合、またカード容量が不足の場合、機能自体がオフになり、メニュー上のオプションは無効になります。

- ・ ライブソナーサウンディングログに含まれるエリアをさらに通過することで、ジェネシスライブマップはより良いものが作成できます。
- ・ ジェネシスライブは最大20ノットまで正確です。

→注意：ジェネシスライブデータは潮汐の補正については調整されません。

ジェネシスライブメニューのオプション

透明性

オーバーレイの透明性を調整します。

等深線の間隔

実際に見える等深線の密度を明確にします。

水深パレット

水深を色分けするカラーパレットをコントロールします。

- ・ ナビゲーション-：ナビゲーションパレットを使用します。
- ・ 水深シェーディング：水深シェーディングパレットを使用します。
- ・ ペーパーチャート-：ペーパーチャートパレットを使用します。
- ・ セーフティーシェーディング：設定した安全な水深よりも浅い色に影を付けます。ジェネシスライブのメニュー上のセーフティーデプスオプションも有効にします。

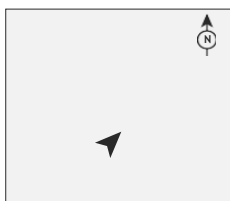


セーフティーデプス

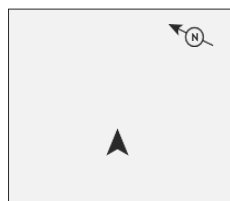
安全な水深の設定をします。安全な最低水深よりも浅いエリアに影をつけます。このオプションはセーフティーシェーディングパレットが選択されている場合のみ利用可能です。

GPS画像方位

GPS画像がパネル上でどう回転するか特定します。パネルの右上角にある方位マークは北を指します。



ノースアップ



コースアップ

ノースアップ

北を上にしてGPSプロッター画像を表示します。

コースアップ

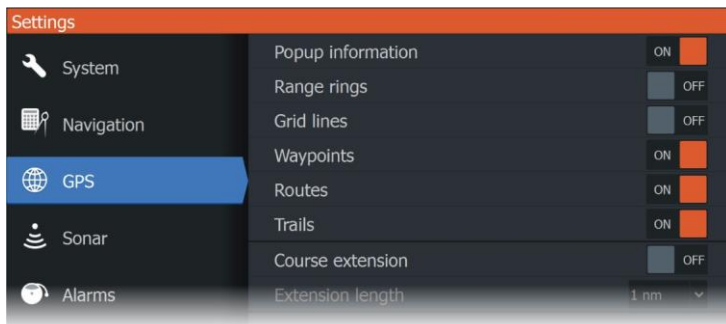
GPSプロッター画像の向きは、航行しているか否かによります：

- 航行時：希望のコースが上向きになります。
- 航行中以外：ポートが実際に移動している方向(COG)が上向きになります。

ルックアヘッド

パネル上の船アイコンを移動し、ポート前方のビューを最大化します。

GPSプロッターの設定



ポップアップ情報

項目を選んだ時に、パネル項目の基本情報を表示するか否かを選択します。

レンジリング

レンジリングを使って、ポートから他のパネルオブジェクトまでの距離を表わすことが可能です。レンジ尺度はシステムによって自動的に設定され、パネルの尺度に合わされます。

グリッドライン

パネル上の緯度経度の格子線の表示をオンオフします。

ウェイポイント、ルート、航跡

パネル上のこれらの項目の表示をオンオフします。

コース延長線

パネル上の実航路軌跡(COG)延長線の表示をオンオフします。COGは、GPSからの情報に基づいています。

延長線の長さ

コース延長オプションがオンになっているときは、表示する線の長さを指定します。

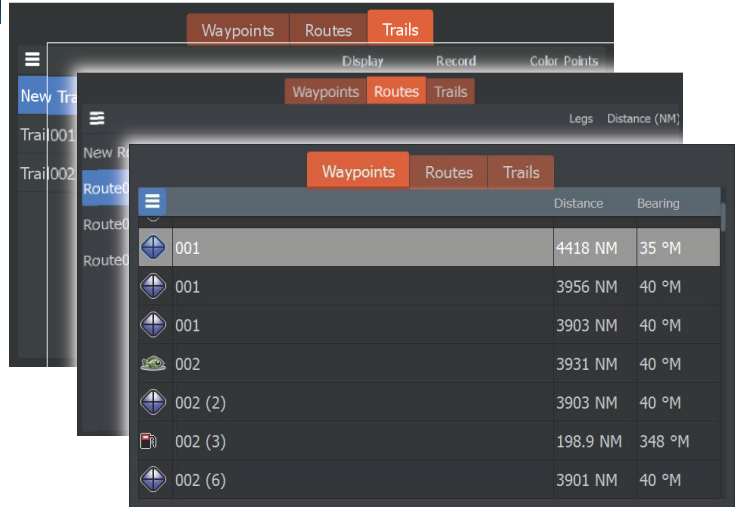
5

ウェイポイント、ルート、航跡

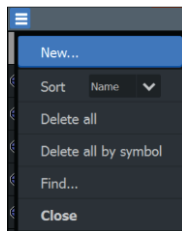
ウェイポイント、ルート、航跡ダイアログ

ウェイポイント、ルート、航跡ダイアログから、高度な編集機能およびこれら項目の設定にアクセスできます。

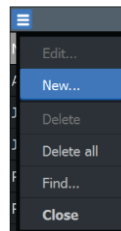
ダイアログは、ホームページのツールパネルからアクセスします。



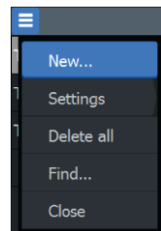
ダイアログ上のメニューアイコンを選んで、追加のオプションにアクセスします。



ウェイポイントオプション



ルートオプション



航跡オプション

ウェイポイント

ウェイポイントは、チャートパネル上に位置を決めてユーザーがマークするポイントです。

各ウェイポイントは経度と緯度の正確な位置を有しています。ウェイポイントを使用して、後で戻る可能性のある位置をマークします。二つ以上のウェイポイントを組み合わせるとルートを作成することも可能です。



ウェイポイントの保存

カーソル/ウェイポイントキーを長押しすると、新しいウェイポイントを保存できます。

- カーソルが無効のときは、ウェイポイントはボート位置に置かれます。
- カーソルが有効のときは、ウェイポイントはカーソル位置に置かれます。

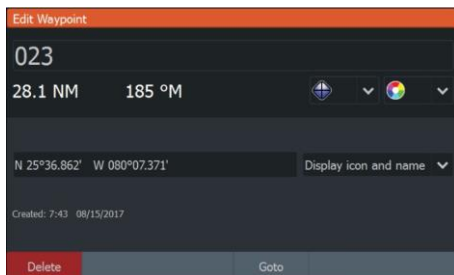
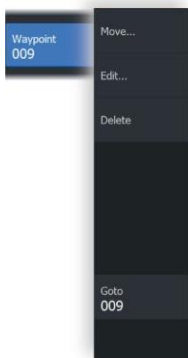
ウェイポイントの移動

1. カーソル/ウェイポイントキーを押す。
2. カーソルを操作してウェイポイントの上に置く。
3. メニューを有効にし、メニュー内のウェイポイントを選ぶ。メニューが開き、移動オプションが表示される。
4. メニュー内の移動オプションを選ぶ。
5. 矢印キーを使ってウェイポイントを新しい位置に移動させる。
6. メニュー/エンターキーを押す。

ウェイポイントの編集

ウェイポイントの編集ダイアログから、ウェイポイントに関するすべての情報を編集できます。

ダイアログは、ウェイポイント上にカーソルを移動し、メニュー内のウェイポイント、編集メニューのオプションを選ぶと有効になります。ダイアログは、ホームページのツールパネル上のウェイポイント、ルート、航跡ダイアログを有効にすることもアクセスできます。ウェイポイントタブを選び、編集したいウェイポイントを選びます。



ウェイポイントの削除

ウェイポイント編集ダイアログからウェイポイントを削除するか、またはウェイポイントが有効になっている時に削除メニューのオプションを選ぶことで削除できます。

ウェイポイント編集ダイアログは、ウェイポイント上にカーソルを移動し、メニュー内のウェイポイント、削除メニューのオプションを選ぶと有効になります。

ウェイポイント編集ダイアログは、ホームページのツールパネル上でウェイポイント、ルート、航跡ダイアログを有効にすることもアクセス可能です。ウェイポイントタブ、削除したいウェイポイント、削除のオプションを選択します。

同じ方法でMOBウェイポイントを削除可能です。

ウェイポイントアラームの設定

作成する個々のウェイポイントについて、アラーム範囲を設定できます。

アラームは、ウェイポイント編集ダイアログ内で設定します。

→注意：ポートが定義した半径内に入った時にアラームを有効にするには、アラームダイアログ内のウェイポイント半径アラームをオンに切り替える必要があります。詳細については、P.65の「アラームダイアログ」を参照ください。

ルート

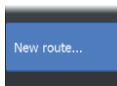
一連のルートポイントで構成されるルートは、航行したい順序で入力します。

パネル上でルートを選ぶと緑色に変わり、ルート名が表示されます。



ページ上での新しいルートの作成

1. メニューから新しいルートのオプションを選ぶ。
2. カーソル/ウェイポイントキーを押してパネル上でカーソルを有効する。
3. 矢印キーを使って、カーソルをパネル上の最初のルートポイントに移動する。
4. メニュー/エンターキーを押してルートポイントを作成する。
5. ステップ3と4を繰り返し、ルートが完成するまでパネル上に新しいルートポイントを位置決めし続ける。
6. 完成したら、イクジット(X) キーを押してルートを保存する。



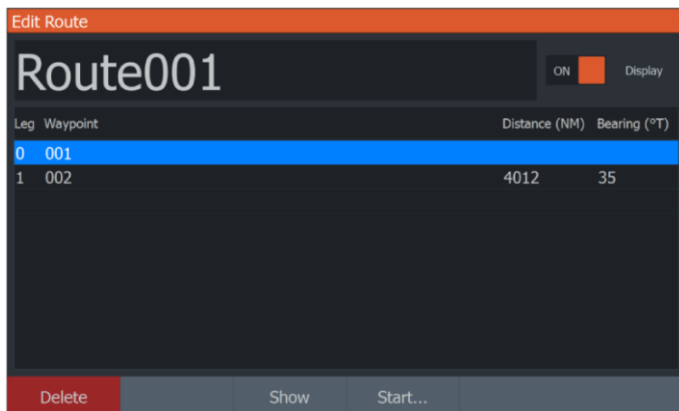
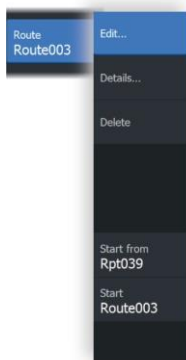
パネルからのルートの編集

ルート上にカーソルを置き、メニュー内でルートを選ぶとルートの編集が可能です。メニュー内の編集オプションを選びます。編集ルートダイアログが開きます。

ダイアログは、ホームページのツールパネル上でウェイポイント、ルート、航跡ダイアログを有効にすることでアクセス可能です。ルートタブを選び、編集したいルートを選びます。

パネルからルートを編集するには：

1. パネル内のルート上でカーソルを操作します。ルートのポップアップが表示されます。
2. メニュー/エンターキーを押し、矢印キーを使用してメニュー内のルートを選びます。追加のオプションを含むメニューが開きます。
 - 編集オプションによってパネル上でルートポイントの移動および削除が可能です。
 - 詳細オプションで、ルートのオプション設定、名前の変更および詳細の管理が可能な、ルート編集ダイアログが開きます。



3. 矢印キーを使って使用したいオプションを選び、メニューエンターキーを押します。
4. プロンプトに従って変更、変更の保存を行います。

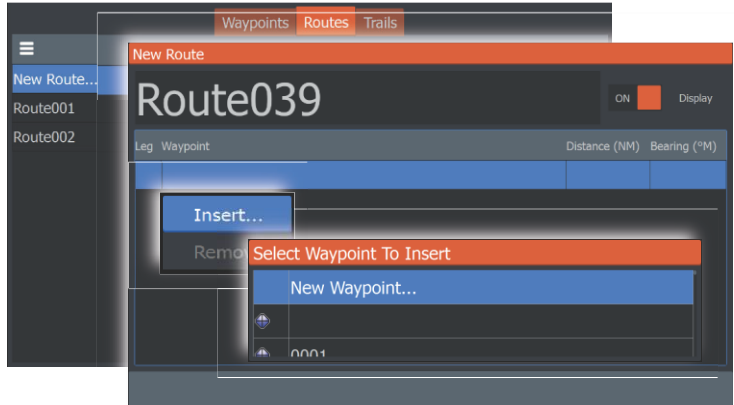
ルートの削除

ルート上にカーソルを置き、メニューのルートを選び、開いたメニューから削除オプションを選ぶと、ルートの削除ができます。

既存のウェイポイントを使用したルートを作成

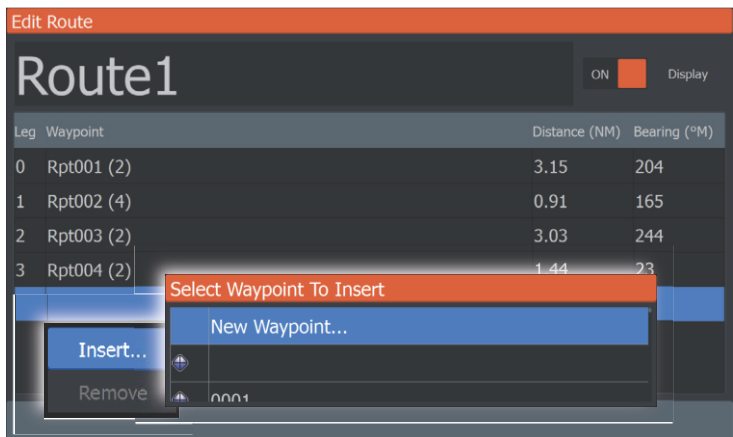
新しいルートダイアログから既存のウェイポイントを組み合わせることで新しいルートの作成が可能です。

ホームページ上でウェイポイント、ルート、航跡のツールを選んだ時に表示されるダイアログ内でルートタブを選ぶことで、ダイアログが有効になります。次に、新しいルートのオプションを選びます。



ルート編集ダイアログから、既存のルートに既存のウェイポイントを挿入することも可能です。

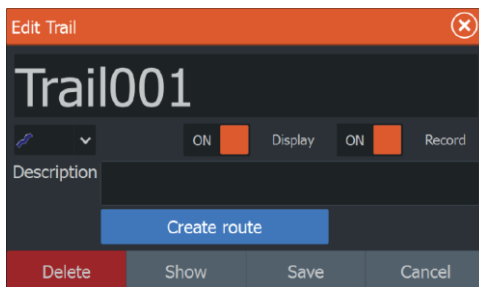
ルート編集ダイアログから、ウェイポイントを挿入したいリストのルートポイントを選び、メニュー/エンターキーを押します。



航跡からルートへの変換

航跡編集ダイアログから航跡をルートに変換できます。航跡を有効にし、航跡のポップアップもしくは航跡メニューのオプションを選ぶと、ダイアログが有効になります。

航跡編集ダイアログは、ホームページ上ウェイポイントツールを選ぶことでもアクセス可能です。



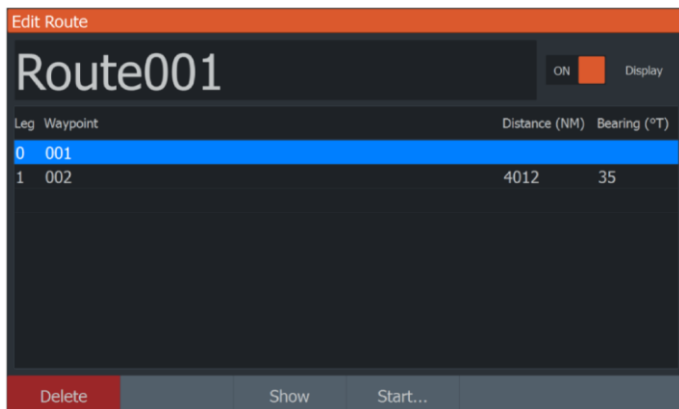
ルート編集ダイアログ

ルート編集ダイアログを使用して、ルートポイントの追加および削除、ルートのプロパティの変更が可能です。

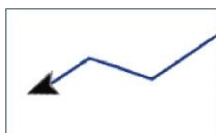
ルート上にカーソルを置いてメニュー内でルートを選ぶとダイアログが有効になります。

ホームページのウェイポイント、ルート、航跡のツールを選んだ時に表示されるダイアログ内でルートタブを選ぶことでも、ダイアログにアクセス可能です。

名前を変更するには、名前のフィールドを選びます。ディスプレイをオンにして、パネル上でルートを表示します。



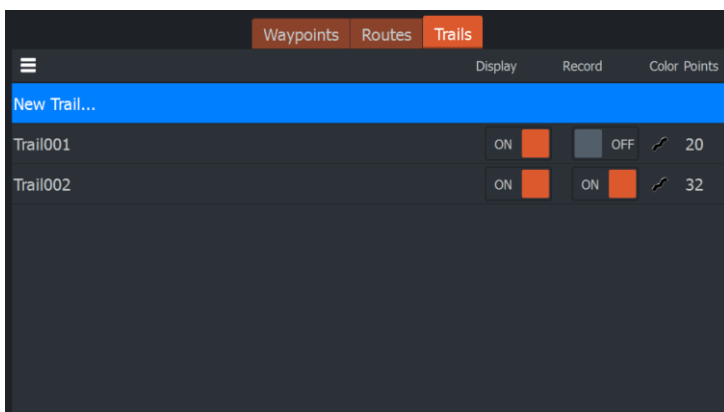
航跡



航跡はボートの履歴経路を図形として表したもので、どこを航行したかを辿ることができます。

航跡編集ダイアログから、航跡をルートに変換可能です。

P.33の「[航跡をルートに変換](#)」を参照ください。



工場において、システムはパネル上のボートの動きを自動的に追跡、描画するように設定されています。システムは、長さが最大点数に達するまで航跡を記録し続け、その後自動的に最も古い点から上書きを開始します。

自動追跡機能（記録）は、航跡編集ダイアログでオフにすることが可能です。

新しい航跡の作成

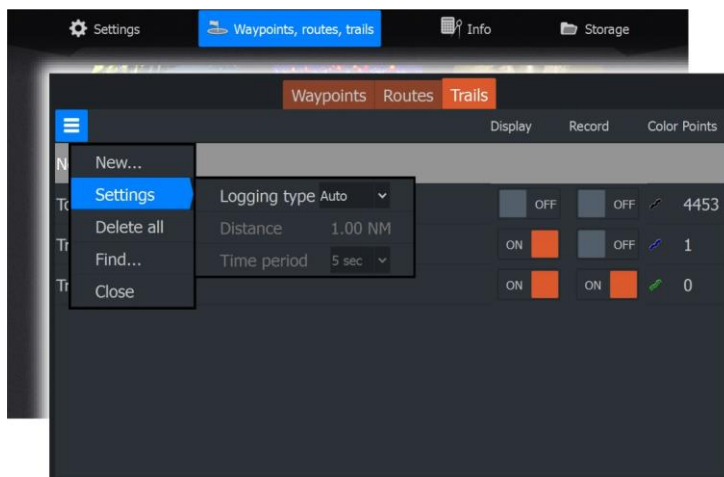
ホームページのウェイポイント、ルート、航跡ツールを使用し、航跡タブを選んで、航跡ダイアログから新しい航跡を開始することができます。

航跡の設定

航跡は、長さが記録の頻度に応じて決まる線分で結ばれた一連の点でできています。

時間設定、距離に基づいて航跡ポイントを位置決めするか、またはコースの変更を登録した時にシステムに航跡ポイントを自動的に位置決めさせるかを選ぶことが可能です。

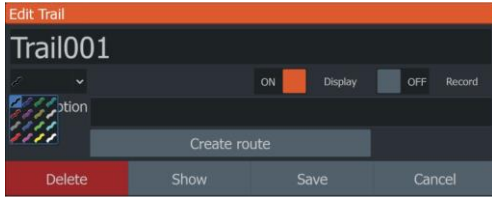
→注意：航跡オプションをパネル設定ダイアログでオンにしないと、表示は出ません。



航跡のカラーリング

航跡に色を付けるには：

- 航跡ダイアログから航跡を選び、航跡編集ダイアログ内で航跡全体についての色を設定します。



6

航法

航法について

本システムが備えているナビゲーション機能で、カーソルの位置へ、ウェイポイントへ、またはあらかじめ設定したルートに沿って航行することが可能です。

ウェイポイントの位置決め、ルートの作成の詳細については、P.28の「ウェイポイント、ルート、航跡」を参照ください。

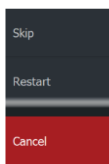
メニューオプション

メニューオプションを使用して：



- カーソル位置へ航行する。
- ウェイポイントへ航行する。
- ルートを航行する。

航行中は、メニューが開き以下のオプションを提供します：



- ルート航行時のウェイポイントのスキップ。
- カーソル、ウェイポイント、ルートへの航行を再開。
- カーソル、ウェイポイント、ルートへの航行を取消。

カーソル位置への航行

チャート/GPSプロッターまたはソナーパネルのカーソル位置への航行を開始することが可能です。

パネル上で選択した目的地にカーソルを合わせ、メニュー内のGoto カーソルオプションを選びます。

→注意：Goto カーソルメニューは、航行中は利用できません。

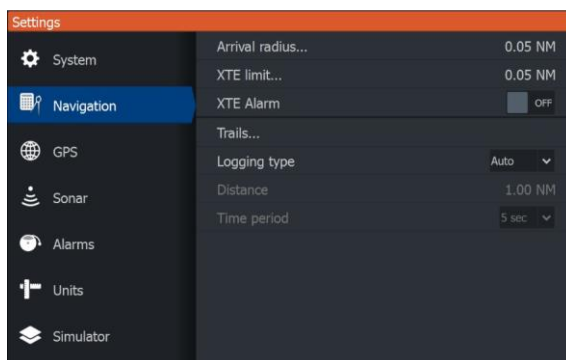
ウェイポイントへの航行

パネル上のウェイポイントへの航行を開始することが可能です。ウェイポイント上にカーソルを合わせ、メニュー内のウェイポイントから、Gotoウェイポイントオプションを選びます。

ルートの航行

カーソルをルート上に置き、メニュー内のルートからルート開始オプションを選択して、航行を開始することができます。ルートの航行を開始したら、ナビゲーションメニューオプションを選んで航行の取消し、ウェイポイントのスキップ、現在のポート位置からのルートの再開を選びます。

ナビゲーションの設定



到達範囲

目的地のウェイポイントの周りに、見えない円を設定します。その範囲内に入ると、ポートはウェイポイントに到達したとみなします。

XTEリミット

選択したルートから逸れることが可能な距離を定め、ポートがこの限度を超えた時に、アラームが発せられます。

XTEアラーム(航跡交差エラー)

XTEアラームをオンオフします。

航跡

航跡の設定が調整できる航跡ダイアログを開くと、航跡は航行用のルートに変換されます。P.34の「航跡」を参照ください。

記録の種類

時間、距離に基づいて航跡ポイントを記録するか、またはコース変更を登録した時に本体にポイントを自動的に位置決めさせるかを選ぶことが可能です。

航法の設定ダイアログで以下のログの種類のをどれかひとつを指定します。

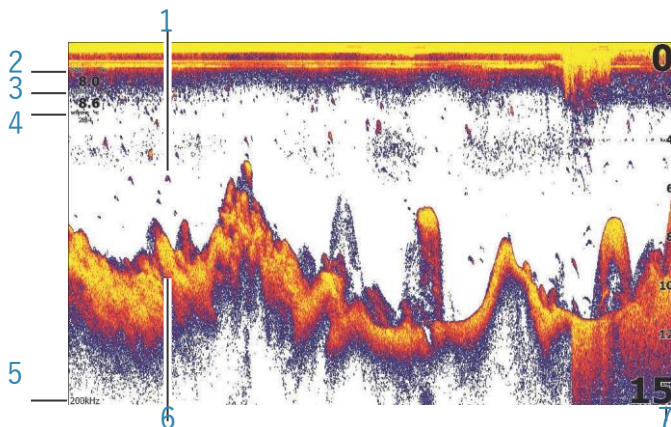
- **オート**- コース変更が登録されると、本体が自動的にポイントを位置決め。
- **距離**- ディスタンスフィールドを選んで、記録したい距離を入力。
- **時間**- タイムフィールドを選んで、記録したい時間を入力。

7

ソナー

ソナー機能によってボート下の水中とボトムを見ることができ、魚群探知と水底調査が可能となります。

ソナー画像



- 1 フィッシュ
- 2 実速度*
- 3 水深*
- 4 水温*
- 5 周波数
- 6 ボトム
- 7 レンジ尺度

*修正可能なオプションのソナーデータのオーバーレイ。
P.19の「データのオーバーレイ」を参照ください。

画像のズーム

ズームキーを使用して、画像のズームが可能です。
ズームレベルは、画像の左下に表示されます。

カーソルを有効にせずにズームを行うと、海底はスクリーンの下の近くに保たれます。カーソルが有効の場合は、本体はカーソルで指した場所をズームします。

分割スクリーンで画像をズームし、ズームバーを表示できます。P.46の分割スクリーン「ズーム」を参照ください。

画像でのカーソルの使用

画像をカーソルで指すと、スクリーンは一時停止し、カーソル位置の水深が示され、情報ウィンドウと履歴バーが有効になります。

履歴の閲覧

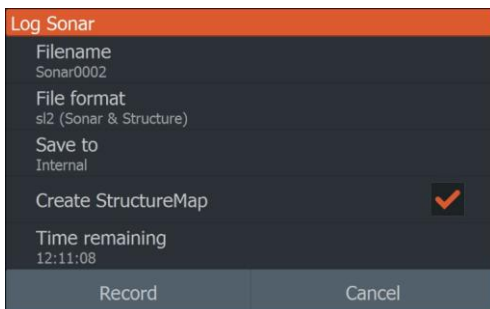
画像のパンニングにより、ソナー履歴を閲覧することができます。画像を左右に振るには、画像上でカーソルを移動します。この時、自動スクロールは停止します。

- 左の矢印キーを使用して、カーソルを画像の左端に移動させます。左の矢印キーを押し続けると、画像は左に進み、過去の画像を表示します。
- 同じように右の矢印キーを使用して画像を右へ進ませ、最新の画像を表示します。
- 通常のスクロールに戻すには、カーソル/ウェイポイントキーを押して画像からカーソルを消します。

ソナーログデータの記録開始

ソナーログデータの記録を開始し、ファイルを本体内部に保存するか、または本体のカードリーダーに挿入したカードに保存することができます

ログソナーダイアログは、システムコントロールまたはソナー設定ダイアログから有効にします。



データが記録されると、左上角に赤い記号が点滅し、スクリーンの下に定期的にメッセージが表示されます。

ファイル名

記録 (ログ) の名前を指定します。

ファイルのフォーマット

ドロップダウンから、slg (ソナーのみ)、xtf (ストラクチャーのみ*)またはsl2 (ソナーおよびストラクチャー) のファイルフォーマットを選びます。

→注意: xtfフォーマットは、サードパーティー製のソナーツールを選んだ場合にのみ使用します。

保存するには

本体内部に記録するか、本体に接続している保存デバイスに記録するかを選びます。

ストラクチャーマップの作成

→注意: このオプションは、サイドスキャンが使えるトリプルショットモデルのみで利用可能です。

記録完了時に、サイドスキャン(.sl2) ログをストラクチャーマップのフォーマット (.smf) に変換可能です。

サイドスキャンログファイルは、ストレージツールバー機能を使用して、ストラクチャーマップフォーマットに変換することも可能です。

残り時間

記録できる、割り当てられた容量の残りを示します。



ソナーログデータの記録停止

システムコントロールダイアログ内で記録停止を選び、次にログソナーダイアログ内のストップを選んで、すべてのソナーログデータについての記録を停止させます。

Logging Sonar	
Filename	Sonar0001.sl2
Time remaining	12:11:14
Time elapsed	0:00:05
File size	397.9 kB
Stop Close	

記録したサウンダーデータの閲覧

内部、外部の両方の保存音響記録は、ソナー設定ダイアログ内でソナーログの閲覧オプションを選んで見直すことが可能です。P.48の「ソナーの設定」を参照ください。

画像設定のカスタマイズ



本体は初期設定ではオートモードに設定されており、ほとんどの設定は自動化されています。画像をカスタマイズするためのカスタマイズ設定は、熟練したソナーのユーザーのみが使用することを推奨します。

メニュー内でオートを選び、カスタムもしくはアイスフィッシングモードに変更して画像の設定をカスタム化します。

メニュー内のその他のオプションを使用して、画像に対するアクセスの追加オプションを設定します。P.53ページの「その他のオプション」を参照ください。

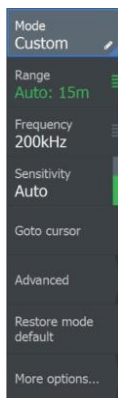
カスタム・アイスフィッシングモードオプション

カスタムおよびアイスフィッシングモードによって、手動でソナー調整するためのコントロールにアクセスできます。

→注意：下記のオプションはカスタムまたはアイスフィッシングモードでのみ利用可能です。

レンジ

レンジの設定でスクリーン上で見える水深を決定します。



周波数

本体は複数のトランスデューサーの周波数に対応しています。利用可能な周波数は接続しているトランスデューサーのモデルで決まります。

感度

感度を上げるとスクリーン内でより多くの詳細が示されます。感度を下げると表示が少なくなります。詳細が多すぎると、スクリーンにノイズが入ります。逆に、感度を下げ過ぎると希望のエコーが表示されない可能性があります。

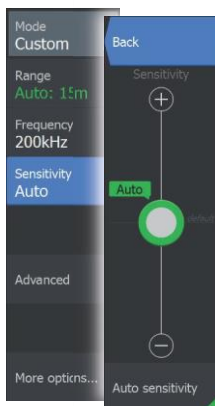
→注意：ほとんどの場合、自動感度が適当なモードとなっています。

自動感度

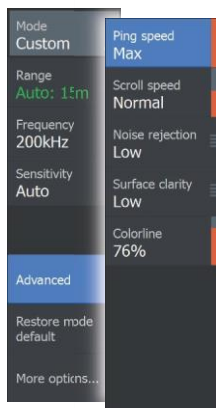
自動感度では、ソナーを最適なレベルに調整します。自動感度の機能を維持しながら、好みに合わせて(+/-)で調整が可能です。

感度の調整

1. 自動感度のメニューオプションを選んで、自動設定をオフにします。
2. 矢印キーを使用して、スクロールバーのメニューオプションをハイライトします。
3. メニュー/エンターキーを押して有効にします。
4. 矢印キーを使用して調整します。
5. メニュー/エンターキーを押して設定を決定します。
6. イクジット(X) キーを押してメニューを閉じます。



高度なオプション



発射速度

トランスデューサーが水中に信号を送信する速度を制御します。初期設定では、最高速度になっており、干渉を制限するために速度の調整が必要となることがあります。

スクロールスピード

スクリーン上の画像のスクロール速度を選ぶことができます。スクロール速度が高いと画像が早く更新され、スクロール速度が低いと長い履歴を表わします。

→注意：状態によっては、スクロール速度を調整してより有用な画像を得ることが必要となります。たとえば、移動せずに垂直に釣りをを行う際は、画像を高速に調整します

ノイズ除去

排水ポンプ、エンジンの振動および気泡などからの干渉で画像にノイズが乗る可能性があります。

ノイズ除去オプションは、信号の干渉にフィルターを掛け、スクリーン上のノイズを減らします。

水面の透明さ

波の動き、ボートの航跡および温度逆転は、水面近くでスクリーンのノイズの原因となり得ます。水面透明化のオプションは、水面近くで受信機の感度を下げて水面のノイズを減らします。

カラーライン

ディスプレイの色を調整して、ユーザーがコントラストの強いターゲットから弱いものを区別する役に立ちます。カラーラインを調整すると、ボトム上またはその近隣の魚や重要な物体を、実際のボトムから区別するのに役立ちます。

上下の矢印キーを使って、スクロールバーを調整します。

初期設定モードの復元

ひとつ以上の設定をカスタマイズした場合には、このメニューオプションが利用可能です。選択すると、すべてのカスタム化した設定が初期設定に戻ります。

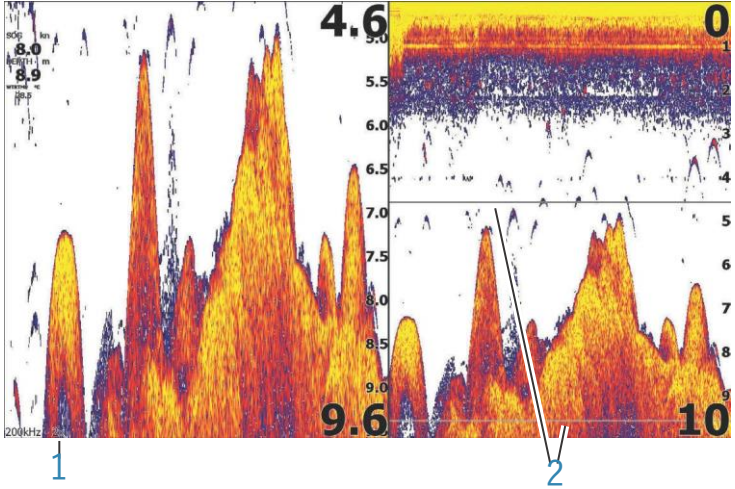
その他のオプション

スクリーン分割オプション

スクリーン分割オプションは、スクリーン分割のサブメニュー内で利用可能です。



ズーム



- 1 ズームの倍率
- 2 ズームバー

ズームモードでは、パネルの左側にサウンダー画像の拡大図を示します。初期設定ではズームの倍率は2倍に設定されています。ズームキーを使用して、最大8倍までのズームが可能です。ディスプレイ右側のレンジズームバーは、拡大された範囲を示します。ズームの倍率を上げると、範囲が狭まります。ズームバー間の距離が減ることで分かります。

ボトムロック

ボトムロックモードは、水底に近い目標を見る際に便利です。このモードでは、パネルの左側にボトムが平坦である画像が表示されます。レンジ尺度が変化し、ボトム (0) から上向きに測定します。レンジ尺度から独立して、ボトムとゼロラインが左側の画像上に常時示されます。パネル左側の画像の尺度倍率は、ズームオプションについての記載通りに調整されます。

フラッシャー

フラッシャーモードでは、点滅式のソナービューを左側のパネルに示し、通常のソナービューを右側のパネルに示します。

振幅スコープ

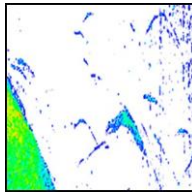
振幅スコープは、パネル上のエコーサウンディングディスプレイです。実際のエコーの強度は幅および色合いの濃さで示されます。

パレット

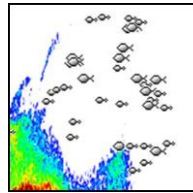
幾つかのディスプレイパレットの中から選ぶことが可能です。

フィッシュID

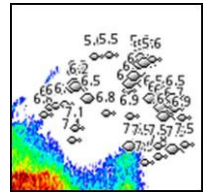
スクリーン上に表わす魚群を選ぶことが可能です。フィッシュIDがパネル上に現われた時にビーブ音で通知を受けたい場合に選択することも可能です。



従来の魚群アーチ



魚群記号



魚群記号と水深表示

→注意：魚群記号のすべてが実際の魚群というわけではありません。

フィッシュIDビーブ音

魚群が特定されるとビーブ音が鳴ります。

オーバーレイダウンスキャン

ダウンスキャン対応のトランスデューサーをシステム接続した時は、通常のソナー画像上にダウンスキャン画像を重ねることができます。

ダウンスキャンのオーバーレイを有効にした時は、ソナーパネルメニューが開き、基本的なダウンスキャンのオプションが表示されます。

距離の測定

カーソルを使用して、画像上の2カ所の観測点位置の間の距離を測定可能です。

1. 距離を測定する起点となるポイント上にカーソルを置きます。
2. その他オプションのメニューオプションから測定機能を開始します。

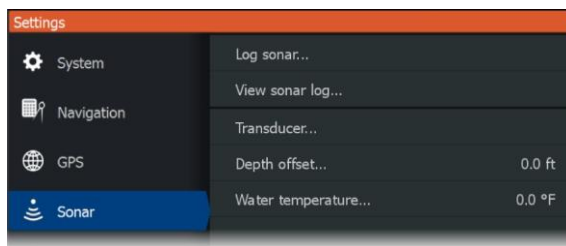
→注意：カーソルが画像上に置かれていない限り、測定機能は利用できません。

3. 2つ目の測定点にカーソルを置きます。
- カーソルポイント間に線が描画され、距離がカーソル情報ウィンドウ内に一覧表示されます。

4. 必要な場合は、新しい測定ポイントを選び続けます。測定機能が有効である限り、メニューを使って始点と終点を再度位置決めすることが可能です。

測定終了を選ぶか、またはイクジット(X) キーを押すと測定機能が停止します。カーソル/ウェイポイントキーを押して画像からカーソルを消去し、画像は通常のスクロールに戻ります。

ソナーの設定



ソナーの記録

ソナーデータの記録の開始、停止のために選びます。

詳細については、P.41の「ソナーログデータの記録開始」を参照ください。

ソナー記録の閲覧

ソナーの記録を閲覧するために使用します。

一時停止した画像としてログファイルが表示されます。コントロールメニューオプションから、スクロールと表示をコントロ

ールします。リプレイ画像上でカーソルを使用して、通常のソナー画像と同じように画像を振ることが可能です。イクジット(X) キーを押して閲覧機能を終了します。

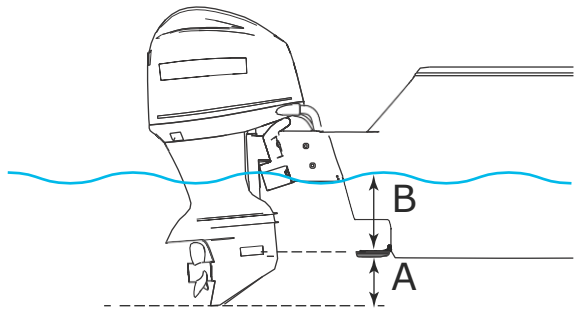
トランスデューサー

本体に接続しているトランスデューサーのモデルを選択します。選んだトランスデューサーによって利用可能なアプリケーション(ソナー、ダウンスキャン、サイドスキャン)およびソナー操作中に選ぶことが可能な周波数が決まります。

水深のオフセット

すべてのトランスデューサーは、トランスデューサーから水底までの水深を測定します。結果として、水深の読み取り値は、トランスデューサーから水中の船の最も低い点(例、キールの底、舵またはスケグ)までの距離、またはトランスデューサーから水面までの距離とは無関係となります。

オフセットの設定前に、トランスデューサーから水中の船の最も低い点、またはトランスデューサーから水面までの距離を測定します。



- A** 船の最低点のオフセット：トランスデューサーから水中の船の最も低い点までの距離を設定します。これは負の値として設定されます。例、-0.3 m (-1 ft)

- B** 水面下（喫水線）の水深オフセット：トランスデューサーから水面までの距離を設定します。これは正の値として設定されます。例、- +0.5 m (+1.77 ft)

トランスデューサーから下の水深は、オフセットを0に設定します。

水温のキャリブレーション

水温の較正を使ってソナートランスデューサーから水温値を調整します。測定した温度に対する局地的な影響を補正するために必要となることがあります。

較正レンジ：-9.9° - +9.9°、初期設定は0° です

→ **注意**：水温の較正は、トランスデューサーが温度能力がある場合のみに表示されます。

8

サイドスキャン

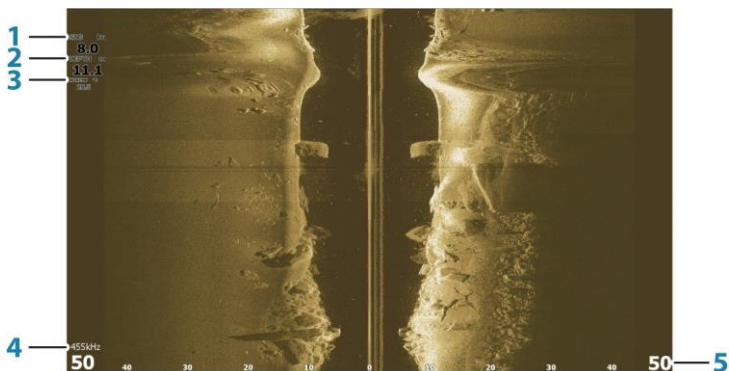
サイドスキャンについて

サイドスキャンは、海底からポートの側面までを精密に幅広くカバーします。

→注意：サイドスキャンは、トリプルショットモデルのみ使用可能です。

サイドスキャンの画像

サイドスキャンの画像は、左側、右側、左右両側のスキャンングを設定できます。



- 1 実速度
- 2 水深
- 3 水温
- 4 周波数
- 5 レンジ尺度

画像のズーム

画像に表示される中心の左右から外への距離を指定するには：

- ・ズームキーを使う。
- ・レンジメニュー設定を使う。

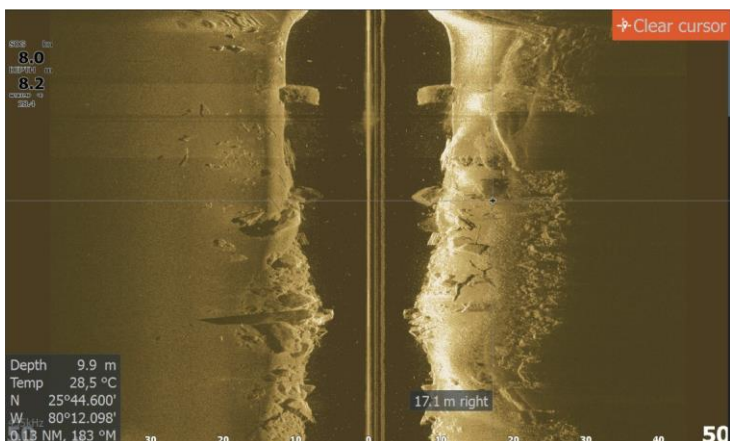
レンジを変更すると、画像がズームイン/アウトします。

パネル上でのカーソルの使用

初期設定では、カーソルは画像上に表示されません。画像上にカーソルを出すには、カーソル/ウェイポイントキーを押します。矢印キーを使用してカーソルの位置を決めます。

画像にカーソルを位置決めすると、スクリーンが一時停止し、カーソル情報ウィンドウが有効になります。ポートからカーソルまでの左右の距離がカーソル位置に表示されます。

パネルからカーソルとカーソルのエレメントを消すには、カーソル/ウェイポイントキーを押します。



履歴の閲覧

画像を上下に進めることで、履歴を閲覧することが可能です。

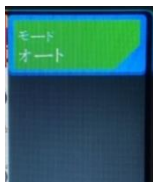
画像を進めるには、カーソル/ウェイポイントキーを押して画像にカーソルの位置を決めます。この時自動スクロールは停止します。

- 下向きの矢印キーを使って、カーソルを画像の下端に移動させます。下向きの矢印キーを押し続けて、画像を下に進めると、履歴画像が見えます。
- 同じように上向きの矢印キーを使って、画像を上へ進めると、最新画像を表示します。
- 通常のスクロールに戻すには、カーソル/ウェイポイントキーを押して画像からカーソルを消します。

サイドスキャンデータの記録

P.41の「ソナーデータの記録開始」で解説されている通り、サイドスキャンを記録し、ファイルを本体内部、もしくはメモリーカードに保存することが可能です。

サイドスキャン画像の設定



本体は初期設定ではオートモードに設定されており、ほとんどの設定は自動化されています。画像をカスタマイズするためのカスタマイズ設定は、熟練したソナーのユーザーのみが使用することを推奨します。メニュー内でオートを選び、カスタムモードに変更して画像の設定をカスタム化します。P.53の「カスタムオプション」を参照ください。

追加のオプションは、オートおよびカスタムモードが利用可能です。P.55の「その他のオプション」を参照ください。

カーソルが有効の時、メニューのオプションの中にはカーソルモード機能に置き換えられるものがあります。カーソル/ウェイポイントキーを押して画像およびカーソルメニューのオプションからカーソルを消去します。

カスタムのオプション

レンジ

レンジの設定で、スクリーン上で見える水深およびサイドスキャンのレンジを決定します。

オートレンジ

レンジをオートに設定すると、システムは自動的に水深に応じてレンジを設定します。

プリセットされたレンジのレベル

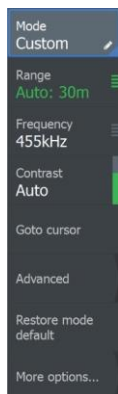
いくつかの予め設定されたレンジの中から選ぶことが可能です。

周波数

2つの周波数に対応しています。ほとんどの場合は455 kHzが最適なレンジと画質を提供しますが、水深が浅い場所では800 kHzを使用するとより詳細な画像を提供します。

コントラスト

スクリーン上の明暗範囲の輝度を決定します。

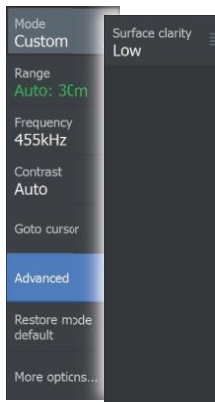


→注意：オートコントラストの使用をお勧めします。

コントラスト設定を調整するには：

1. メニュー内のコントラストオプションを選ぶ。
2. オートコントラストを選び、メニュー/エンターキーを押して自動コントラストをオフにする。
3. 矢印キーを使用して、調整バーをハイライトし、メニュー/エンターキーを押して有効にする。
4. 矢印キーを使用して設定を調整する。
5. メニュー/エンターキーを押して設定を保存する。

高度な設定



水面の透明さ

波の動き、ボートの航跡および温度逆転は、水面近くでスクリーンのノイズの原因となり得ます。水面透明化のオプションは、水面近くで受信機の感度を下げて水面のノイズを減らします。

→注意：初期設定では、画像の反射と鮮明さを最適化するために、水面の鮮明さは低に設定されています。

初期設定モードの復元

ひとつ以上の設定をカスタマイズした場合には、このメニューオプションが利用可能です。選択すると、すべてのカスタム化した設定が初期設定に戻ります。

その他のオプション



画像の左右切替

必要な場合は、画像の左右を切り替えて、トランスデューサーの取付方向に合わせます。

レンジライン

レンジラインを追加して、距離を簡単に予測できます。

パレット

いくつかのディスプレイパレットの中から選ぶことができます。

ビュー

サイドスキャンページで画像の左側のみ、右側のみ、同時に左右を表示する場合に指定します。

距離の測定

カーソルを使用して、画像上の2カ所の観測点間の距離を測定できます。

1. 距離を測定する起点となるポイント上にカーソル位置を決めます。
2. その他のオプションのメニューオプションから測定機能を開始します。
→ **注意：** カーソルが画像上に置かれていない時は、測定機能は利用できません。
3. 2つ目の測定点にカーソルを置きます。
- カーソルポイント間に線が描画され、カーソル情報ウィンドウ内に距離が一覧表示されます。
4. 必要な場合は、新しい測定ポイントを選び続けます。

測定機能が有効である限り、メニューを使って始点と終点を再度位置決めすることが可能です。

測定終了を選ぶか、またはイクジット(X) キーを押すと測定機能が停止します。カーソル/ウェイポイントキーを押して画像からカーソルを削除すると、画像は通常のスクロールに戻ります。

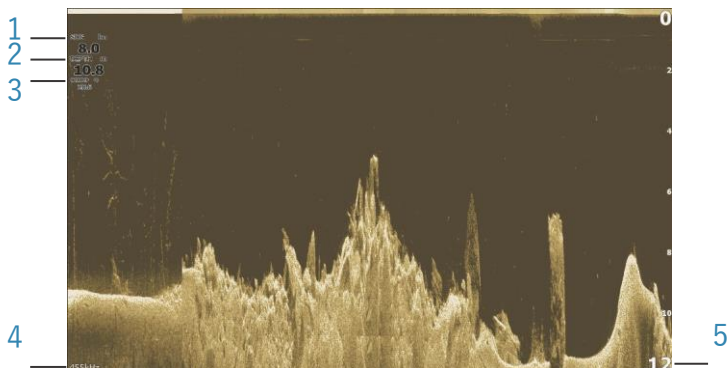
9

ダウンスキャン

ダウンスキャンについて

ダウンスキャンは、ボートの真下の状態と魚群の画像を提供します。ダウンスキャンパネルは、ダウンスキャン対応のトランスデューサーが接続されている時に利用可能です。

ダウンスキャンパネル



- 1 実速度
- 2 水深
- 3 水温
- 4 周波数
- 5 レンジ尺度

ダウンスキャン画像のズーム

ズームキーを使って、ダウンスキャン画像のズームが可能です。

パネル上でのカーソルの使用

初期設定では、カーソルはダウンスキャンパネル画像上に表示されません。画像上にカーソルを出すには、カーソル/ウェイポイントキーを押します。

矢印キーを使用してカーソルの位置を決めます。ダウンスキャン画像にカーソルを置くと、スクリーンが一時停止し、カーソル情報ウィンドウが有効になります。ポートからカーソルまでの距離はカーソル情報ウィンドウの下欄に表示されます。カーソルの水深は、カーソル位置の左に表示されます。パネルからカーソルとカーソルのエレメントを消すには、カーソル/ウェイポイントキーを押します。

Goto カーソル

カーソルをパネル上に置き、メニューのGotoカーソルオプションを使用して、画像上の選択された位置に航行することが可能です。

履歴の閲覧

画像をパニングすることで、ダウンスキャンの履歴を閲覧することができます。画像をパニングするには、Cursor/Waypointキーを押して画像にカーソルを置きます。この時、自動スクロールは停止します。

- 左の矢印キーを使って、カーソルを画像の左端に移動させます。左の矢印キーを押し続けて、画像を左に進ませると、履歴画像が見えます。
- 同じように右の矢印キーを使用して画像を右へ進めると、最新画像を表示します。
- 通常のスクロールに戻すには、カーソル/ウェイポイントキーを押して画像からカーソルを消します。

ダウンスキャンデータの記録

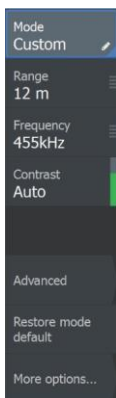
ダウンスキャンデータは、記録ダイアログから正しいファイルフォーマットを選ぶことで記録することができます。P.41の「ソナーデータ記録の開始」を参照ください。

画像設定のカスタマイズ

本体は初期設定ではオートモードに設定されており、ほとんどの設定は自動化されています。ソナー画像をカスタマイズするためのカスタマイズ設定は、熟練したソナーのユーザーのみが使用することを推奨します。メニューからオートを選び、カスタムモードに変更して画像の設定をカスタム化します。追加のオプションはオートおよびカスタムモードについて利用可能です。

P.60の「その他のオプション」を参照ください。

カーソルが有効であると、メニュー内のいくつかのオプションはカーソルモード機能に置き換えられます。カーソル/ウェイポイントキーを押して、画像およびカーソルメニューのオプションからカーソルを消去します。



カスタムモードのオプション

カスタムモードを選ぶとメニューが開き、より多くのオプションが表示されます。これらのメニューオプションを使用して画像をカスタマイズします。

レンジ

レンジの設定で、画像で見える水深を決定します。

オートレンジ

初期設定ではレンジはオートに設定されています。水面からボトムまでの全レンジを自動的に表示します。

プリセットされたレンジのレベル

水深を限定しない特定の水深レンジを選択できます。

周波数

ダウンスキャンは800 kHzまたは455 kHzで使用可能です。800kHzでは、狭いレンジで最高の解像度を提供します。455kHzはレンジが最大になりますが、解像度が下がります。

初期設定モードの復元

ひとつ以上の設定をカスタマイズする場合に、このメニューオプションが利用可能です。選択すると、すべてのカスタマイズした設定が初期設定に戻ります。

コントラスト

スクリーン上の明暗範囲の輝度を決定します。

→注意：オートコントラストでを使用することをお勧めします。

コントラスト設定を調整するには：

1. メニュー内のコントラストオプションを選ぶ。
2. オートコントラストを選び、メニュー/エンターキーを押して自動コントラストをオフにする。

3. 矢印キーを使用して、調整バーをハイライトし、メニュー/エンターキーを押して有効にする。
4. 矢印キーを使用して設定を調整する。
5. メニュー/エンターキーを押して設定を保存する。

フィッシュリビール

フィッシュリビールを選んで、画像内の魚群のアーチを表示します。

フィッシュリビールを有効にすると、メニューが開き、フィッシュリビールのオプションが表示されます

感度

フィッシュリビールデータの感度を制御します。感度を上げるとスクリーン上により多くの情報が示されます。感度を下げると、情報は少なくなります。

情報が多すぎると、スクリーンにノイズが入ります。感度を下げすぎると、小さな魚群アーチのデータは表示されないことがあります

カラーライン

魚群アーチデータの色を調整して、他のターゲットからの区別にします。カラーラインを調整すると、海底上またはその近隣の魚や重要な物体を、実際のボトムから区別するのに役立ちます。

水面の透明さ

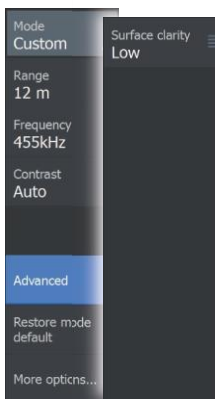
波の動き、ボートの航跡および温度逆転は、水面近くでスクリーンのノイズの原因となり得ます。水面明確化オプションは、水面近くで受信機の感度を下げて水面のノイズを減らします。

パレット

様々な魚群の状態を適化した、いくつかのディスプレイパレットから選びます。

→注意：パレットの選択は多くの場合ユーザーの好みであり、魚群の状態に応じて変化することがあります。画像詳細とフィッシュリビールアーチのコントラストが良くなるようにパレットを選ぶのが最善です





高度なオプション

水面の透明さ

波の動き、ボートの航跡および温度逆転は、水面近くでスクリーンのノイズの原因となり得ます。

水面明確化のオプションは、水面近くで受信機の感度を下げて水面のノイズを減らします。

→注意：初期設定では、画像の反射と鮮明さを最適化するために、水面の鮮明さは低に設定されています。

その他のオプション

レンジライン

レンジラインを追加して、距離を簡単に予測できます。

パレット

いくつかのディスプレイパレットの中から選ぶことができます。

距離の測定

カーソルを使用して、画像上の2カ所の観測点間の距離を測定できます。

1. 距離を測定する起点となるポイント上にカーソルを置きます。
2. その他のオプションのメニューオプションから測定機能を開始します。

→注意：画像上にカーソルが置かれていない限り、測定機能は利用できません。

3. 2つ目の測定点にカーソルを置きます
- カーソルポイント間に線が描画され、カーソル情報ウィンドウ内に距離が一覧表示されます。

4. 必要な場合は、新しい測定ポイントを選び続けます。

測定機能が有効である限り、メニューを使って始点と終点を再度位置決めすることが可能です。測定終了を選ぶか、またはイクジット(X)キーを押すと測定機能が停止します。カーソル/ウェイポイントキーを押して画像からカーソルを消去し、画像は通常のスクロールに戻ります。



10

ストラクチャーマップ

ストラクチャーマップについて

ストラクチャーマップ機能では、サイドスキャンソースからのサイドスキャン画像をマップ上に重ねます。これによりボート周りの水中環境を簡単に可視化し、サイドスキャン画像も見やすくなります。

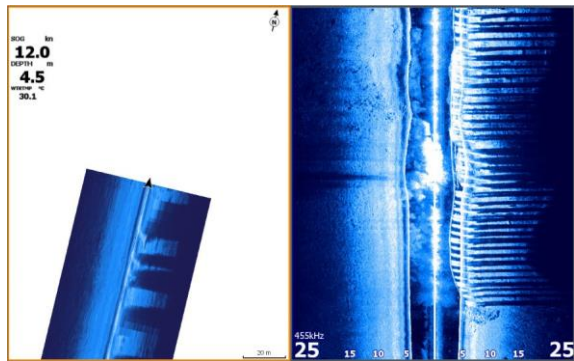
→注意：サイドスキャンはトリプルショットモデルのみ使用可能です。

ストラクチャーマップの画像

ストラクチャーマップは、お使いのチャートパネル上のオーバーレイとして表示することができます。

チャートパネルメニューからストラクチャーオーバーレイを選ぶと、ストラクチャーオーバーレイのためのオプションを表示するメニューが増えます。

下の図が、従来のサイドスキャンパネルと組み合わせた、ストラクチャーオーバーレイ付きのGPSパネル例です。



ストラクチャーオーバーレイがある時は、通常通りにGPSパネル内を移動します。ズームキーを使って、チャートとスキャンした画像をズームします。

ストラクチャーマップのヒント

- ・ 背の高い構造物（廃船など）の画像を得るには、その上を通らず、ストラクチャーがボートの左か右側にくるように操船してください。

- ・ エリアを横並びでスキャンをする時は、航跡履歴を重ねないでください。

ストラクチャーマップデータの記録

システムコントロールダイアログ内のログソナーオプションを使って、サイドスキャンデータを記録し、ストラクチャーマップデータに変換します。

サイドスキャンパネルからダイアログが開いている、またはストラクチャーオーバーレイ付きのチャートパネルが有効になっている時に、システムコントロールダイアログから記録を開始することが可能です。

サイドスキャンデータが記録されると、赤い記号が点滅し、スクリーン下に定期的にメッセージが表示されます。

➔注意：メッセージにはファイルサイズに関する情報が含まれています。ファイルが高速に変換できるように、ログサイズは100MB以下に抑えてください。

システムコントロールダイアログ内のログ停止機能を選んで記録を停止します。

サイドスキャンデータのストラクチャーマップフォーマットへの変換

サイドスキャンログファイル (.sl2) は、記録ダイアログまたはファイルのブラウザから記録した後に、ストラクチャーマップフォーマット (.smf) に変換します。

標準もしくは高解像度ファイルを作成することができます。高解像度の.smfファイルは、より詳細にとらえることが可能ですが、標準解像度ファイルよりも大きく、変換に時間がかかります。

空き容量を保つには、変換後にサイドスキャン(.sl2) ファイルを削除することをお勧めします。

ストラクチャーのオプション

ストラクチャーマップ設定は、ストラクチャーオプションのメニューから調整します。このメニューは、ストラクチャーオーバーレイが有効の時に利用可能です。

保存したストラクチャーマップファイルをソースとして使用している時は、すべてのオプションが使用可能であるわけではありません。利用できないオプションはグレーになっています。



透過度

ストラクチャーオーバーレイの透過度を設定します。透過度を最低に設定すると、チャートの詳細はストラクチャーマップオーバーレイにほとんど隠れてしまいます。

パレット

画像のカラーパレット選択に使用します。

コントラスト

スクリーン上の明暗範囲の輝度を決定します。

ウォーターコラム

ライブモードのウォーターコラムを表示/非表示します。

オフにすると、バイトの群はサイドスキャン画像内では見えなくなることがあります。

オンにすると、マップ上のサイドスキャン画像の精度が水深により影響を受けることがあります。

ライブ履歴の消去

既存のライブデータ履歴を消去し、最新のデータのみを表示します。

11

アラーム

アラームシステム

システムは、システム実行中の危険な状況およびシステム不良を継続的に確認します。アラームが必要な状況が発生した時は、アラームメッセージがスクリーン上にポップアップで表示されます。

サイレンを有効にすると、アラーム音が聞こえ、その後にアラームメッセージが続きます。

アラームはアラーム一覧に記録され、詳細を見て適当な是正措置を執ることができます。

メッセージの種類

メッセージは、報告される状況がボートに及ぼす影響に応じて分類されます。以下のカラーコードを使用します：

色	重度
赤	危機的な警告
オレンジ	重要な警告
黄	標準的な警告
青	警告
緑	軽微な警告

アラームメッセージ

アラームメッセージは、アラーム名、アラームの詳細と共に表示されます。

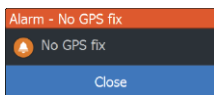
メッセージの確認

メッセージ確認のアラームダイアログオプションはアラームに応じて変わります：

- 閉じる/クローズ

アラーム状態を確認済みと設定します。サイレン/ブザーが止み、アラームダイアログが消えます。

ただし、アラームの原因が解消するまではアラームはアラーム一覧内に残ります。

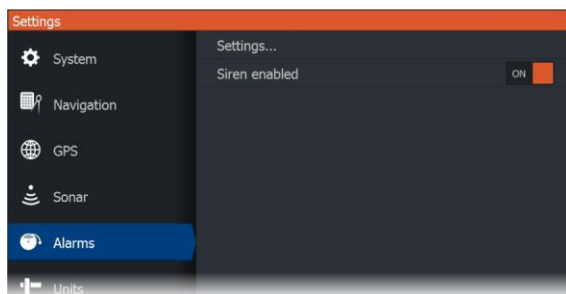


- 無効
現在のアラーム設定を無効にします。アラーム設定ダイアログ内に戻さない限り、アラームは再表示されません。

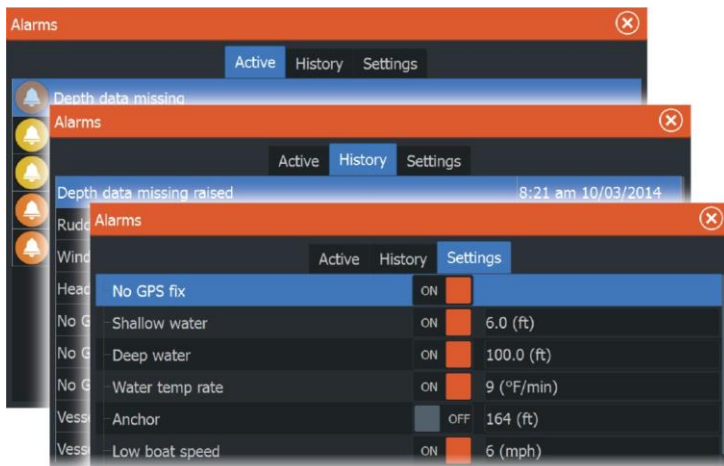
メッセージやサイレンには一時中止ありません。確認済みとなるか、メッセージの原因が解消されるまでは有効のままとなります。

アラームダイアログ

アラームダイアログからアラームサイレンを有効にします。



この設定オプションを選んで、アラーム設定ダイアログを開きます。アラーム設定ダイアログ内ですべてのアラームをセットアップします。



12

ツール

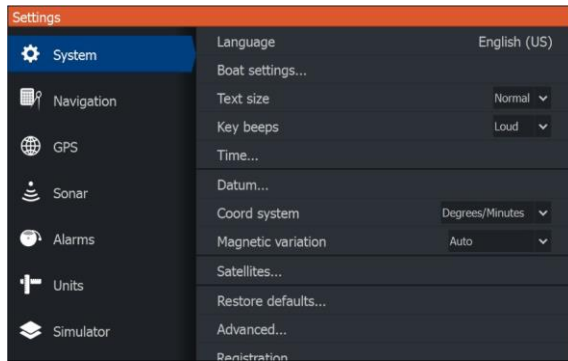
ツールパネルには、オプションにアクセスするためのアイコンと、パネルを特定しないツールが含まれています。ツールパネルは、ホームにあります。



設定

アプリケーションとシステムの設定にアクセスできます。

システムの設定



システムの設定で、以下のオプションにアクセスできます。

言語

パネル、メニューおよびダイアログについて、本体で使用されている言語をコントロールします。言語を変更すると、本体は再起動します。

ボートの設定

ボートの物理的な属性を指定します。

テキストサイズ

メニューおよびダイアログの文字サイズを設定します。

キーのビーブ音

キーを押したときのビーブ音の大きさを制御します。

時間

地域の時間帯の補正および日時の書式を制御します。

データム

ほとんどのペーパーチャートはWGS84フォーマットで作成されています。

お使いのペーパーチャートが異なるフォーマットの場合は、それに応じてデータムの設定を変更することが可能です。

座標系

いくつかの座標系を使用して、パネル上に表示される緯度経度の座標のフォーマットを制御することが可能です。

磁気変位

磁気変位は、地理北極点と磁気北極点の位置の違いに起因する、真方位と磁方位の差です。鉄鉱脈などの地域的な特異性も磁方位に影響を及ぼします。

オートに設定すると、システムは自動的に磁方位の北を真方位の北に変換します。自身で地域の磁気変位を入力する必要がある場合は手動モードを選びます。

サテライト

有効な衛星の状態ページです。

初期設定の復元

元の工場設定時に復元する設定を選ぶことが可能です。

⚠ 警告：ウェイポイント、ルート、航跡を選ぶと、完全に削除されます。

アドバンス

より詳細な設定のあるパネルを表示します。様々なユーザーインターフェース情報を表示する方法を設定します。さらに、インターフェース内にどの機能を表示するかを制御します。

登録

デバイスの登録を促します。登録は以下で可能です：

- インターネットアクセスしているスマートデバイスから
- 電話から

アバウト

本ユニットの著作権情報、ソフトウェアのバージョンおよび技術情報を表示します。

航法

到着範囲、XTE limit、XTE アラーム、航跡およびログタイプなど航法についての設定を指定する場合のオプションとダイアログを提供します。

P.38の「ナビゲーションの設定」を参照ください。

GPSプロッター

お使いのGPSプロッターの設定を指定する場合のオプションとダイアログを提供します。P.27の「チャートの設定」を参照ください。

ソナー

お使いのソナーの設定を指定する場合のオプションとダイアログを提供します。P.48の「GPSプロッターの設定」を参照ください。

アラーム

サイレンを有効にするオプションを提供します。項目についてのアラーム音を指定するダイアログも提供し、有効なアラーム情報およびアラーム履歴を含みます。P.65の「アラームのダイアログ」を参照ください。

単位

様々なデータタイプで使用される測定単位を設定します。

シミュレーター

シミュレーターを手動で制御します。詳細については、P.75の「シミュレーター」を参照ください。

ウェイポイント/ルート/航跡

ウェイポイント、ルート、航跡の詳細を含む一覧。詳細については、P.28の「ウェイポイント、ルート、航跡」を参照ください。

インフォ

太陽/月、潮汐および航行情報にアクセスします。

太陽、月

入力したデータに基づいた位置および位置の緯度/経度についての日の出、日の入り、月の出および月の入りを表示します。

トリップ

航行情報を提供します。航行情報をリセットします。

ストレージ

ファイル管理システムにアクセスします。本体内部のメモリーおよび本体に接続している保存デバイスの内容の閲覧および管理に使用します。

保存デバイスへのファイルコピー

スクリーンショット、ログなどのユーザーデータを、本体に接続している保存デバイスにコピーすることも可能です。システム設定、ウェイポイント、ルートおよび航跡などのユーザーデータを保存デバイスにコピーすることが可能です。エクスポートするファイルは、P.70の「メンテナンス」のセクションを参照ください。

13

メンテナンス

予防的メンテナンス

本体には、現地で整備できるコンポーネントは一切ありません。したがって、オペレーターが実施できるのは極めて限られた予防的なメンテナンスのみです。

本体を使用しない時は、常に日除け用のサンカバーを取付けることをお勧めします。

→注意：サンカバーは別売りです。カバーに付属の取付ガイドを参照ください。

ディスプレイユニットのクリーニング

スクリーンのクリーニング方法：

- ・きめ細かい布または柔らかい綿の布を使ってスクリーンを清掃してください。残った塩分は清水を軽く吹き付け、乾いたきめ細かい布または柔らかい綿の布で、ユニットを拭きます。濡らした布を使うと、結晶化した塩分、砂、汚れなどが保護コーティングを傷つけることがあります。布を押し付けしないでください。

ハウジングのクリーニング方法：

- ・液体食器洗い洗剤または合成洗剤を少量混ぜた温水を使用してください。

研磨剤入り洗浄製品や溶剤入りの製品（アセトン、鉱物テレピン油など）、酸、アンモニア、アルコールなどは、ディスプレイおよびプラスチックのハウジングを傷つけるため、使用しないでください。

- ・噴射や高圧洗浄を行わないでください。カーウォッシュにかけないでください

コネクターのチェック

コネクタープラグをコネクターに押し込みます。コネクタープラグがロックやポジションキーを備えている場合は、正しい位置にあることを確認します。

サービスアシスタント

システムには、ソフトウェアのバージョン、シリアル番号、および設定ファイルからの情報を含む本体レポートを作成して技

術サポートの調査に役立つ、サービスアシスタントが組み込まれています。

1. 本体に空のメモリーカードを挿入する。
2. システム設定ダイアログの>Aboutページを開く。
3. サポートを選び、レポート作成を選ぶ。
4. 指示に従う。

5. メモリーカードにレポートを保存する。

スクリーンショットおよびログファイルをレポートに添付して追加することが可能です。レポートの添付ファイルの制限は20MBです。まず技術サポートに電話する場合は、ケース番号を入力し、その追跡でサポートを受けることができます。メモリーカードからレポートをメールし、インターネット接続したスマートデバイスやPCを使ってサポートします。

ソフトウェアのアップデート

ユニットのアップデートを始める前に、必ず貴重なユーザーデータをすべてバックアップしてください。P.71の「システムデータのバックアップ」を参照ください。

ソフトウェアのアップデート

➔**注意：** マッピングカードにはソフトウェアのアップデートをダウンロードしないでください。ソフトウェアのアップデート、レポートやファイルが保存できる十分な容量のある、マッピングのされていないメモリーカードを使用してください。

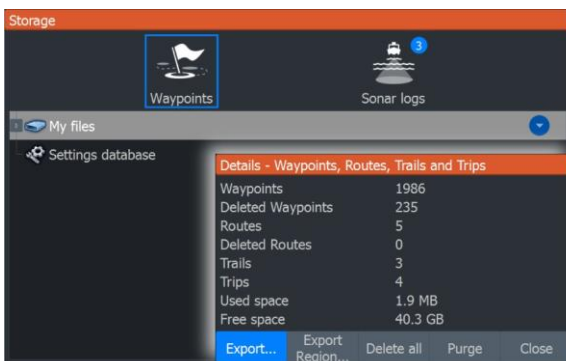
➔**注意：** アップデートが完了するまで本体をオフにしないでください。

1. www.lowrance.comから、インターネットに接続したPCやスマートデバイスに挿入したメモリーカードにソフトウェアのアップデートをダウンロードしてください。
2. 本体の電源をオフにし、その後ソフトウェアのアップデートを入れたカードを本体に挿入します。
3. 本体の電源をオンにします。進捗バーが現われて、アップデート中のソフトウェアを表示します。アップデートを完了させ、本体の電源はオフにしないでください。本体が再起動済みとなるまで、カードを取外さないでください。

システムデータのバックアップ

定期バックアップの一環として、ユーザーデータおよびシステム設定のデータベースを定期的にコピーすることをお勧めします。

すべてのウェイポイント、ルート、航跡のエクスポート
システム内のウェイポイント、ルート、航跡バックアップには、エクスポートのオプションを使用します。



リージョンのエクスポート

リージョンのエクスポートオプションによって、データをエクスポートするエリアを選択します。

1. リージョンのエクスポートを選ぶ。
2. 境界枠の角にカーソルを置き、メニュー/エンターキーを押して選択する。
3. 矢印キーを使って、選んだ境界枠の角を動かして枠を広げる。
4. メニュー/エンターキーを押し、角に置く。
5. 必要に応じて、ステップ2~3を他の境界枠の角でステップ2~4を繰り返す。
6. イクジット(X)キーを押して、エクスポートしたいリージョンが枠で覆われていることを示す。エクスポートリージョンダイアログが開く。
7. エクスポートオプションを選ぶ。
8. 適当なファイルフォーマットを選ぶ。
9. エクスポートを選んで、画面指示に従ってエクスポート先のフォルダーとファイル名を指定する。

エクスポートフォーマット

エクスポートには以下のフォーマットが使用可能です：

- **ユーザーファイルデータバージョン6**

ウェイポイント、ルートおよび色付きの軌跡/航跡のエクスポートに使用します。

- ユーザーファイルデータバージョン5**
 標準化された汎用固有識別子 (UUID) 付きのウェイポイントおよびルートのエクスポートに使用します。極めて信頼性が高く使いやすいものです。データにはルートが作成された日時などの情報を含んでいます。
- ユーザーファイルデータバージョン4**
 項目についてシステムが保存しているすべての余分な情報も含んでいるため、システム間のデータの転送に最適です。
- ユーザーファイルデータバージョン3 (水深あり)**
 システムから旧製品にユーザーデータを転送する際に使用してください。
- ユーザーファイルデータバージョン2 (水深なし)**
 システムから旧製品にユーザーデータを転送する際に使用可能です。
- GPX (GPS Exchange, 水深なし)**
 ほとんどのGPSシステムを共有している、ウェブ上で使われているフォーマットです。他社のユニットにデータを取る場合にこのフォーマットを使用してください。

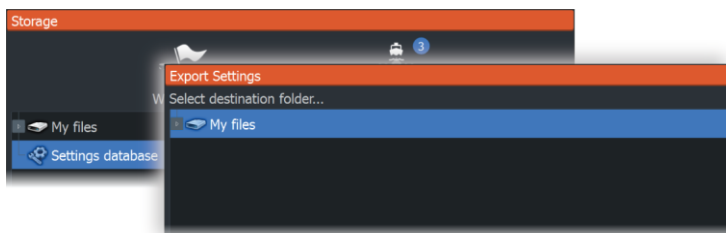
ユーザーデータの完全消去

データを完全消去するまでは、消去したユーザーデータは本体のメモリー内に保存されています。未完全消去データが大量にあり、それを完全消去することでシステムの性能が向上することがあります。

→ **注意**：ユーザーデータは削除され、メモリーから完全削除されると、回復は不可能です。

設定データベースのエクスポート

保存ダイアログ内のデータベースオプションの設定を使用して、ユーザー設定をエクスポートします。



バックアップファイルのインポート

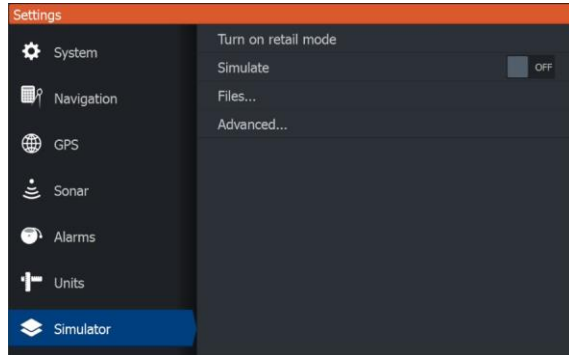
1. バックアップファイルを含んだメモリーカードを本体のカードリーダーに挿入する。
2. ツールパネルからストレージダイアログを開いてメモリーカードを選ぶ。
3. インポートしたいファイルを探して選ぶ。詳細なダイアログが開く。
4. インポートのオプションを選んで、画面指示に従う。

インポートが完了するとメッセージが出ます。

14

シミュレーター

シミュレーター機能によって、他のデバイスに接続せずに、静止位置でユニットの作動を見ることができます。設定ツールからシミュレーターにアクセスします。



リテールモード

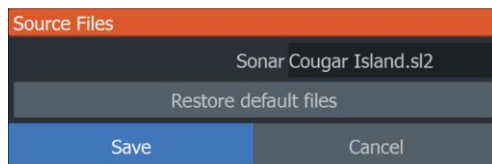
このモードでは、選択したリージョンについてのリテールのデモが表示されます。

リテールモード時に本体を操作するとデモは中断します。タイムアウトが過ぎると、リテールモードが再開します。

→注意：リテールモードは、小売店/ショールームのデモ用に作成されています。

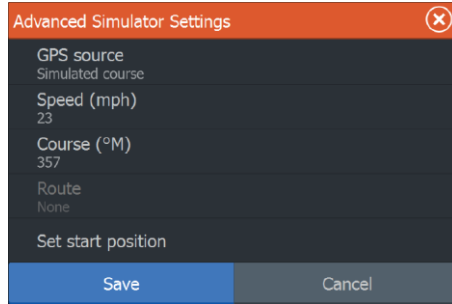
シミュレーターソースファイル

シミュレーターに使用するソナーデータファイルを選ぶことが可能です。システム内にソースファイルが1セットおり、カードリーダーに挿入したカードを使ってファイルをインポートすることが可能です。自身で記録したソナーログデータファイルをシミュレーターで使うこともできます。



高度なシミュレーターの設定

高度なシミュレーターの設定によって、手動でシミュレーターを制御することが可能です。



GPS ソース

シミュレーションされたGPSデータ用にファイルを選択します。

スピードとコース

GPSソースをシミュレーションされたコースに設定する時に、手動で値を入力するために使用します。それ以外に、スピードおよびコースを含むGPSデータは、選択したソースファイルから入力します。

スタート位置の設定

自身でシミュレーションしたボート位置を現在のカーソル位置に設定します。

→ **注意**：このオプションは、GPSソースをシミュレーションされたコースに設定するときのみ使用可能です。

LOWRANCE®

* 988-12692-001 *